

～予防接種の対象年齢と受ける時期のめやす～

定期予防接種

国や自治体が「受けるように努めなければならない」と強くすすめている予防接種です。規定の年齢での接種であれば費用は原則無料です。
(指定医療機関外で接種する場合は、一部自己負担になる場合もあります。)

□…無料で接種を受けられる年齢

■…接種可能年齢のうち、受けるのが勧められている期間

↓…好ましい接種時期

ワクチン	種類	生後90か月												標準的な接種年齢(月齢)とスケジュール										
		3 か 月	6 か 月	9 か 月	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	7 歳	8 歳	9 歳		10 歳	11 歳	12 歳	13 歳	14 歳	15 歳	16 歳			
B型肝炎	不活化	①	②	③																				生後2～9か月までの間に、27日以上の間隔で2回接種し、初回接種から139日以上間をおいて3回目を接種します。
ロタ	ロタテック(5価)	①	②	③																				生後6週から32週までの間に27日以上の間隔で3回接種します。初回接種は生後6週から14週6日までに受けてください。
	ロタリックス(1価)	①	②																					生後6週から24週までの間に27日以上の間隔で2回接種します。初回接種は生後6週から14週6日までに受けてください。
小児用肺炎球菌	不活化	①	②	③	④																			標準的な接種開始年齢は、生後2～7か月未満です。接種開始時期により接種回数異なります。詳しくは次ページの表をご覧ください。
五種混合(百日咳、ジフテリア、破傷風、不活化ポリオ、ヒブ)	不活化	①	②	③	④																			初回接種は生後2か月から、20日から56日の間隔をおいて3回行い、追加接種は初回接種終了後12か月～18か月の間隔をおいて1回行います。
BCG	不活化		①																					生後5～8か月に達するまでの間に1回接種します。
麻しん風しん混合(MR)	不活化				①																			1期 1歳の間に1回接種します。 2期 5～7歳未満の子で小学校就学前(保育園・幼稚園等の年長児期)の1年間(4/1～3/31)に1回接種します。
水痘(水ぼうそう)	不活化				①	②																		生後12～15か月の間に1回接種した後、1回目の接種後6～12か月の間隔をおいて2回目を接種します。
日本脳炎(※注)	不活化				①	②	③						④											1期 3～4歳の間に6～28日の間隔をあけて初回接種(2回)を行い、初回接種終了後、約1年後に追加接種(1回)を行います。 2期 9～10歳未満の間に1回接種します。
二種混合(ジフテリア・破傷風)	不活化																							小学・義務教育学校6年生に相当する子
HPV(子宮頸がん予防)	2価サーバリックス	不活化																						中学・義務教育学校1年生相当の女子
	4価ガーダシル	不活化																						▼3種いずれも1年以内に接種を終えることが望ましいとされています。 【2価：サーバリックス】 1回目から1か月後に2回目、1回目から6か月後に3回目を接種 【4価：ガーダシル】 1回目から2か月後に2回目、1回目から6か月後に3回目を接種 【9価：シルガード9】 1回目の接種を15歳未満で受ける場合 5か月以上開けて2回接種(5か月未満の場合は3回接種) 1回目の接種を15歳になってから受ける場合 1回目から2か月後に2回目、1回目から6か月後に3回目を接種
	9価カド	不活化																						

ワクチンの種類

ワクチンは、感染症の原因となるウイルスや細菌をもとに作られています。成分の違いから、大きく「生」と「不活化」に分けられます。

生ワクチン	毒性を弱めた生きた病原体でできたワクチンです。接種することで病原体に軽く感染したような状態になりますが、接種後の免疫は強くなります。生ワクチンには、注射生ワクチンと経口生ワクチンがあります。
不活化ワクチン	死んだ病原体や病原体の一部を集めたもの(病原体ではなく、免疫をつけるのに必要な成分のみ)でできています。体内で病原体が増えないため、免疫はつきにくく、複数回の接種が必要です。

任意予防接種

個人で接種するかを判断し、費用も自己負担となる予防接種です。健康保険は通常適用されません。

ワクチン	種類	接種スケジュール
おたふくかぜ	注射生ワクチン	対象年齢は1歳以上で接種することができ、1回接種をします。日本小児科学会では2回の接種を推奨しています。
三種混合・不活化ポリオ(追加)	不活化	日本小児科学会では、三種混合と不活化ポリオワクチンもMR2期と同時期に接種することを推奨しています。
(※)季節性インフルエンザ	不活化	生後6か月以上で接種することができます。13歳未満は2～4週間間隔をあげ、2回接種します。
新型コロナウイルス	mRNAワクチンなど	医療機関にご相談ください。

(※)季節性インフルエンザの助成については、担当課にお問い合わせください。

異なるワクチンの接種間隔について

接種	次の接種
注射生ワクチン (BCG、MR、水痘、おたふくかぜ等)	★ 『注射生ワクチン』は27日は接種不可 ★ 『経口生ワクチン・不活化ワクチン』は接種可(接種間隔に制限はありません)
経口生ワクチン	★ 異なるワクチンは接種可(接種間隔に制限はありません)
不活化ワクチン	★ 異なるワクチンは接種可(接種間隔に制限はありません)
新型コロナワクチン	★ 13日は接種不可 ★ 注射(経口)生ワクチン、不活化ワクチン

同じ種類のワクチンの接種間隔について

同じ種類のワクチン接種を複数回受ける場合は、ワクチンごとに決められた間隔を守る必要があります。上記記載の「標準的な接種年齢(月齢)とスケジュール」を参考にしてください。